

くじゅう坊ガツル地域の自然を考える

くじゅう坊ガツル・タデ原湿原が、平成17年11月に、ラムサール条約に登録されました。ラムサール条約とは国際的に重要な湿地やそこに生息する動植物の保全や賢明な利用を促進するために、各国がとるべき措置などを取り決めた国際的な条約です。

重要性が国際的に認められたことから、この地域の保全と利用への関心が高まっています。



坊ガツル全景



坊ガツルの野焼き



野焼き後芽吹いた坊ガツル

まず、他の地域からの生き物が入り込んで、坊ガツルの生態系に影響を与えないようにしなければなりません。

この地域には生えていない種類の植物を植えないことはもちろん、できるだけ、外の土を持ち込まないように、車のタイヤや登山靴に着いた土などにも気を付けたいものです。

そして、植物などを持ち帰らない、登山道以外の周辺地や湿原内にむやみに入り込まない、ゴミを持ち帰るなど、山に入ったときのマナーを守ること大切です。

湿原を守っていくためには

坊ガツル地域には、これまで見てきたように、様々な貴重な動植物などが生息しています。しかし、以前に見られたツクシフウロ、ヒゴシオンなどの植物やミヤマカラスアゲハ等の昆虫などは、今では姿を見かけるのが難しくなっています。

坊ガツルは古くから放牧や野焼きが行われるなど、人の営みとも関わりながら形成されてきた地域です。このすばらしい自然環境を次代に引継がなくてはなりません。

残された豊かな自然を保全し、また、姿を見かけなくなった生き物を呼び戻すには、私たちは何をすればよいのでしょうか。



ボランティアによる外来種駆除活動

このほかにも、自然環境を保全するために私たち一人ひとりができることはたくさんあります。

皆さんには、是非、この豊かな自然に恵まれた坊ガツルを訪れていただき、その自然のすばらしさを体で感じていただきたいと思います。そして、この自然を次の世代に伝えていくには、どうすればよいのか、何ができるのか、考えることから始めてみましょう。



湿原を潤す大船山麓の湧水

坊ガツルの四季

春
Spring



夏
Summer



秋
Autumn



冬
Winter

